

**2009 年度
経営計画の概要**

2009 年 3 月

北海道電力株式会社

目次

はじめに	1
I. 2009年度の重点取り組み事項	
1. 経営課題克服に向けた取り組み	
□安定供給に向けた取り組みの推進	2
□ゼロベースからの視点に立った費用低減の推進	4
2. 持続的な発展を目指した取り組み	
□信頼の回復に向けた取り組みの強化	6
□業務運営体制の整備	6
□お客さまからの選択の獲得に向けた取り組みの強化	6
□地域・社会との共生に向けた取り組みの推進	7
II. 2009年度供給計画の概要	
1. 電力需要の見通し	10
2. 設備計画	12
参考資料1：中期経営方針（2008～2010年度）の概要	15
参考資料2：設備投資額（当社単独）	16
参考資料3：電力系統略図	16
参考資料4：ほくでんグループ各社の事業内容	17

はじめに

当社は、「中期経営方針（2008～2010 年度）」に基づき、「信頼の回復に向けた取り組みの強化」「電気事業の基盤整備と費用低減に向けた取り組みの推進」「お客さまからの選択の獲得に向けた取り組みの強化」「地域・社会との共生に向けた取り組みの推進」を目指し、グループ一体となった取り組みを進めております。

2008 年度は、今後の経営面での重要基盤となる泊発電所 3 号機について、試運転開始や、プルサーマルの実施に向けて前進を果たすとともに、メガソーラーの導入検討など地球温暖化問題への対応にも積極的に取り組んでまいりました。また、燃料費調整の激変緩和措置に関する国からの要請にも的確に対応してまいりました。

一方、収支面では泊発電所蒸気発生器 1 次冷却材入口管台溶接部の応力腐食割れ（PWSCC）や過去 2 番目の濁水による火力発電の燃料費負担の増加などにより大幅な経常損失となる見込みです。

2009 年度は、泊発電所 3 号機の運転開始に伴う償却負担や発電・流通設備の経年化対策費用の増加に加え、景気後退による販売電力量の減少の懸念もあり、厳しい収支状況が予想されますが、確固たる経営基盤を築くことが何よりも重要であるとの認識から、「安定供給の確保」と「ゼロベースからの視点に立った費用低減」にしっかりと取り組んでまいります。

今年度は、泊発電所 3 号機の営業運転の開始を予定しており、当社にとって大きな節目の年となります。

この経営計画等に基づく取り組みを通して、お客さま、地域の皆さま、株主・投資家の皆さまのご期待にお応えしてまいります。今後ともほくでんグループの事業に対し、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2009 年 3 月
北海道電力株式会社

I. 2009年度の重点取り組み事項

1. 経営課題克服に向けた取り組み

□安定供給に向けた取り組みの推進

「低廉な電気の安定供給」は、ほくでんグループの変わらぬ使命です。低炭素社会の実現に配慮しながら多様な電源をバランス良く組み合わせるとともに、設備の経年化対策を着実に実施することなどにより、電気の安定供給を確保します。

【低炭素社会の実現にも配慮した電源開発】

- 環境性、経済性などで優位性を持つ泊発電所 3号機（原子力）について、2009年12月の営業運転開始に向け、着実に試運転を進めます。
- 泊発電所 3号機におけるプルサーマル^(※)計画について、2009年3月に、北海道および地元 4ヵ町村（泊村、共和町、岩内町、神恵内村）から安全協定にもとづく事前了解をいただきました。今後は、国による安全審査などの手続きを着実に進めるとともに、地元 4ヵ町村をはじめ広く皆さまのご理解をいただくための取り組みを継続して実施します。

(※) 原子力発電所で使用したウラン燃料（使用済燃料）から再処理して取り出したプルトニウムとウランなどを混ぜて新しい燃料をつくり、原子力発電所で再利用すること。

2009年12月に3号機の営業運転開始を目指す泊発電所



(注) 一番右が3号機。

- 既設水力発電所の出力向上や中小水力発電所の開発に向けて検討を進めます。

- 低炭素社会の実現に向けた取り組みのひとつとして、「2020年度までに合計5千kW程度の大規模太陽光発電（メガソーラー）の導入」を目指します。このうち1千kWは、伊達発電所（石油火力）構内に設置することとし、2012年度までの運転開始を目指し諸準備を進めます。

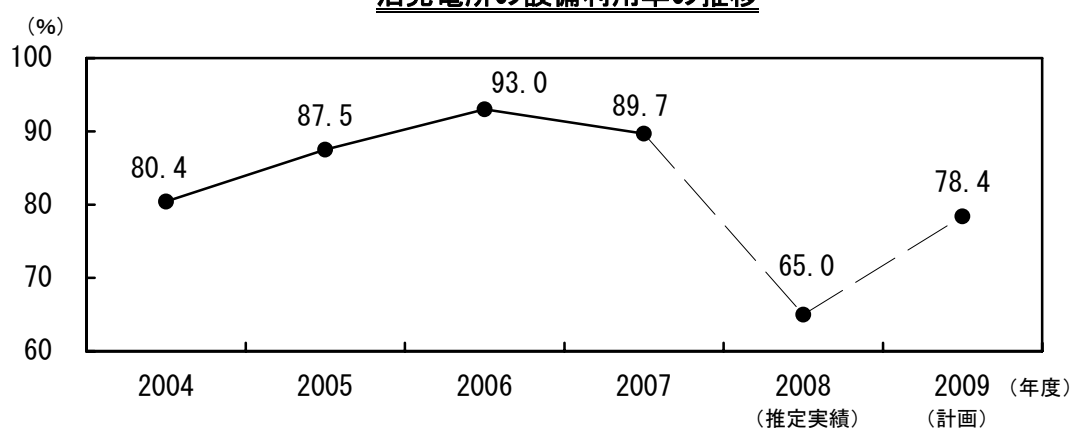
伊達メガソーラー発電所（仮称）設置イメージ図



【安定供給の確保に向けた対応】

- 経年化が進んでいる発電・流通設備の的確かつ効率的な保全をしっかりと実施し、安定供給の確保に努めます。
- 特に、泊発電所では、安全を最優先に、安定・着実な運転に努めます。

泊発電所の設備利用率の推移



- (注) 1. 設備利用率は、定期検査の実施時期などにより変動する。
2008年度は、蒸気発生器1次冷却材入口管台溶接部の工事実施に伴い、1・2号の定期検査期間をそれぞれ約1か月、約2か月延長したため、利用率が低下。
2. 2009年度は、3号機（2009年12月営業運転開始予定）を含む。

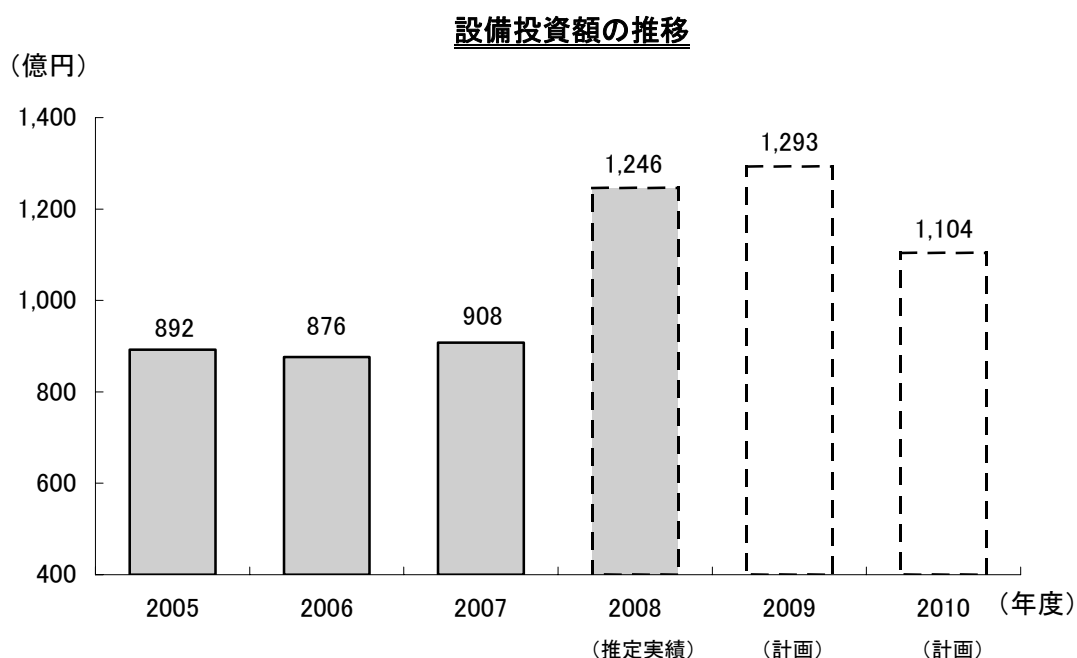
- 世界的な燃料の需給状況や価格などの変動を注視しつつ、中長期的な視点に立ち、購入先・契約形態の多様化など、燃料の安定かつ柔軟な調達を進めます。

□ゼロベースからの視点に立った費用低減の推進

支出全般にわたりゼロベースからの視点で内容を精査し、安定供給の確保を前提に、費用低減に向けた取り組みを強力に推進します。

【設備投資額などの低減】

- 泊発電所 3 号機などの電源開発に係る設備投資額が高いレベルになることに加え、発電・流通設備の経年化が進展する中、設備更新や修繕工事の費用低減に取り組みます。



- (注) 1. 2008 年度は、実施段階での効率化等により、当初計画値 1,286 億円より 40 億円減の 1,246 億円となる見込み。
2. 2009 年度は、泊発電所 3 号機 (2009 年 12 月営業運転開始予定) の設備投資の最終年度。
3. 設備投資額の詳細は、参考資料 2 の「設備投資額 (当社単独)」をご覧ください。

【設備の効率的運用】

- 苫東厚真発電所 (海外炭火力) において、低出力時でも石油火力並みの調整機能を持たせるための取り組みを進めます。また、苫小牧発電所 1 号機 (石油火力) において天然ガス混焼のための改良工事を進め、2009 年 12 月の運用開始を目指します。
- 卸電力取引所の活用などにより、経済的な電力取引を進めます。

【資材調達コストの低減】

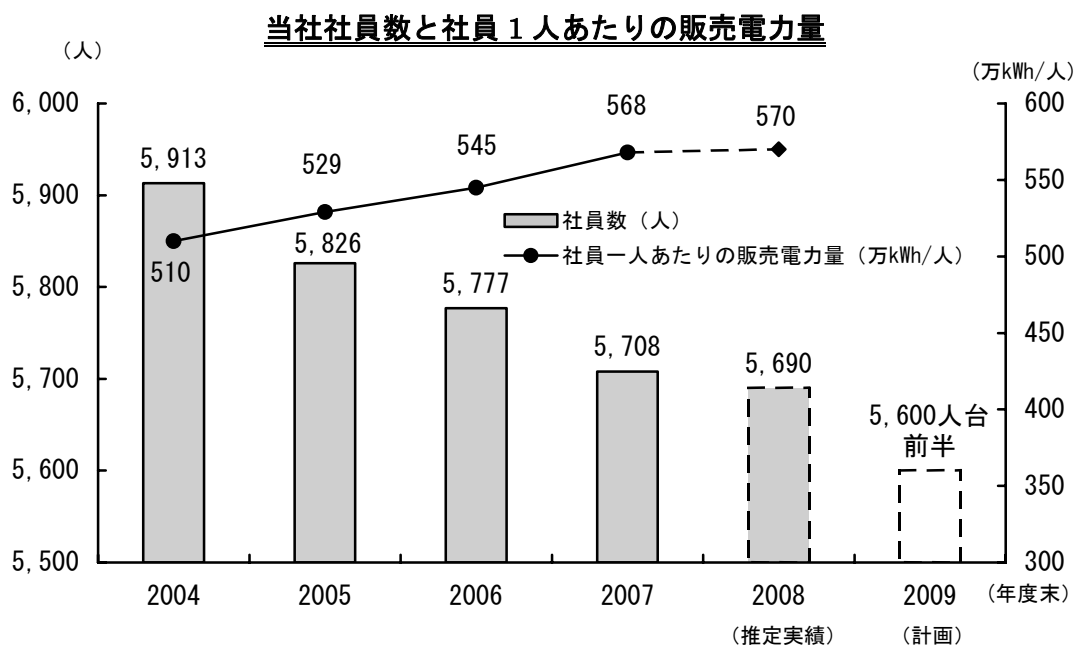
- グループ共同契約^(※1)の拡大、コスト総合評価方式^(※2)など、戦略的な資材調達の実施により、調達コスト低減に向けた取り組みを進めます。

(※1) 当社とグループ各社による資材の共同契約により、スケールメリットを活かしてコストダウンを図ること。

(※2) 見積価格（イニシャルコスト）と一定期間のランニングコストを総合的に評価する見積評価方式。

【要員の効率的活用】

- より効率的な業務運営を目指して、本店組織をスリム化し、要員の再配置を進めます。



【諸経費などの低減】

- 当社はもとより、グループ各社を含め、業務の抜本的な見直しや支出内容の精査・点検を行い、諸経費全般の低減に向けたさまざまな方策を強力に進めます。

2. 持続的な発展を目指した取り組み

□信頼の回復に向けた取り組みの強化

発電設備に係る不正な運用などにより、地域の皆さまをはじめ広く社会の皆さまの信頼を大きく損なったことを真摯に受け止め、ほくでんグループ一体となって業務品質の確保とコンプライアンスの徹底に向けた取り組みを継続して進めます。

- 基本業務の的確な遂行が業務運営のベースにあるとの認識を持ち、「法令の遵守」、「お客さまの視点」、「ミスの発生・拡大の防止」、「業務効率向上」という4つの観点から、基本業務の再点検を継続し、業務品質の確保に努めます。
- コンプライアンスに反する行為を「防止」し、「発見」し、「拡大継続させない」との視点に立ち、企業倫理委員会^(※)のもと、法令遵守の徹底や企業倫理などに則った公正な事業活動を確実に展開します。
- コンプライアンス教育・研修や法的支援の実施などにより、グループ全体でのコンプライアンス意識の浸透・定着化を図ります。

(※) コンプライアンス（法令・企業倫理等の遵守）の徹底やコンプライアンスに反する事案への的確な対応、再発防止に向けた取り組みなど、コンプライアンスに係る取り組みを円滑かつ効率的に推進することを目的に、外部有識者をメンバーに加え、2007年3月に設置。

□業務運営体制の整備

ほくでんグループ一体となって、効率的な業務運営体制の整備と技術・技能の確実な継承に取り組むとともに、労働安全の強化に向けた取り組みを進めます。

- より効率的な業務運営体制の整備を目指し、グループワイドな業務運営や現業業務の集中化などの再点検、必要に応じた見直しを実施します。
- グループ一体となった技術・技能の確実な継承に取り組むとともに、若手社員の早期戦力化に向け、計画的な人材育成に取り組めます。
- 労働災害の防止に向け、関係協力会社を含めたグループ全体での安全活動を強力に展開します。

□お客さまからの選択の獲得に向けた取り組みの強化

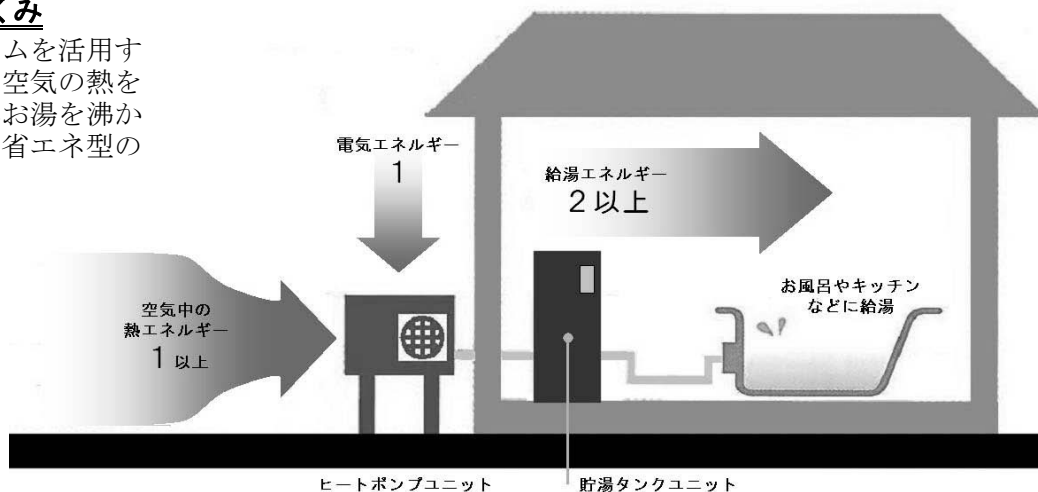
省エネルギー・環境特性に優れたヒートポンプ機器を積極的に提案するとともに、ほくでんグループが持つ多様なノウハウを活用し、お客さまにご満足いただけるサービスを提供します。

- 家庭用のお客さまには、「エコキュート・チャレンジ・100」^(※)をスローガンに、省エネルギー・環境特性に優れた「エコキュート」の提案活動を積極的に展開するとともに、電気の手順な使い方など、お客さまにご満足いただけるサービスを提供します。

(※) 道内で今後導入される電気給湯器を早期にすべて「エコキュート」とすること。

エコキュートのしくみ

ヒートポンプシステムを活用するエコキュートは、空気の熱を電気の力で取り込みお湯を沸かす、環境にやさしい省エネ型の給湯器です。



- 法人のお客さまには、ビルや店舗などへのヒートポンプ空調・給湯、電化厨房の提案活動を展開します。
- 「ほくでん電化サポートセンター」では、電化に関する相談からコンサルティング、アフターサービスまで、お客さまの安心・快適な電化ライフをサポートします。



ほくでん電化サポートセンター

「ほくでんサービス㈱」内の「ほくでん電化サポートセンター」では、24時間・年中無休で電化に関するお客さまのさまざまなお問い合わせを受付けています。

【フリーダイヤル】

☎0120-155-680

□地域・社会との共生に向けた取り組みの推進

低炭素社会の実現に向けた諸活動を推進するとともに、地域・社会との共生に向けた取り組みを充実させることなどにより、企業の社会的責任を果たします。

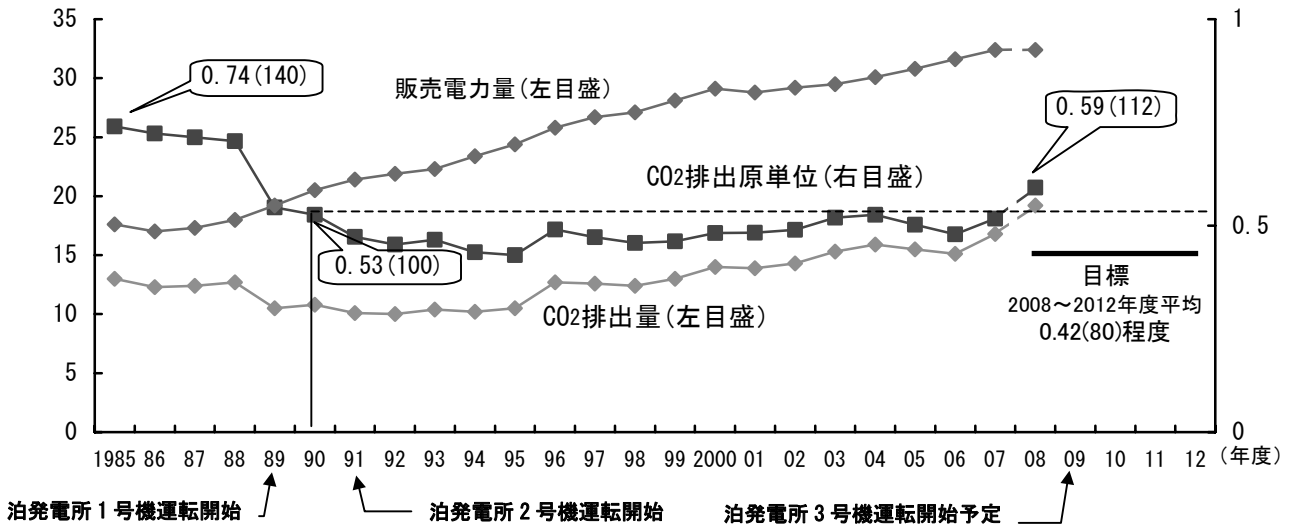
【地球温暖化防止に向けた取り組み】

- CO₂削減に向けた自主目標である「2008年度～2012年度の5年間平均のCO₂排出原単位で、1990年度実績から20%程度低減」の達成を目指し、発電時にCO₂を排出しない泊発電所1・2号機の安定的な運転や、泊発電所3号機の計画どおりの導入に加え、京都メカニズムの活用、国内CDM事業の創出・取得など、状況に応じたさまざまな対策を講じます。

(十億 kWh)
(百万 t-CO2)

CO₂ 排出原単位の推移

(kg-CO₂/kWh)



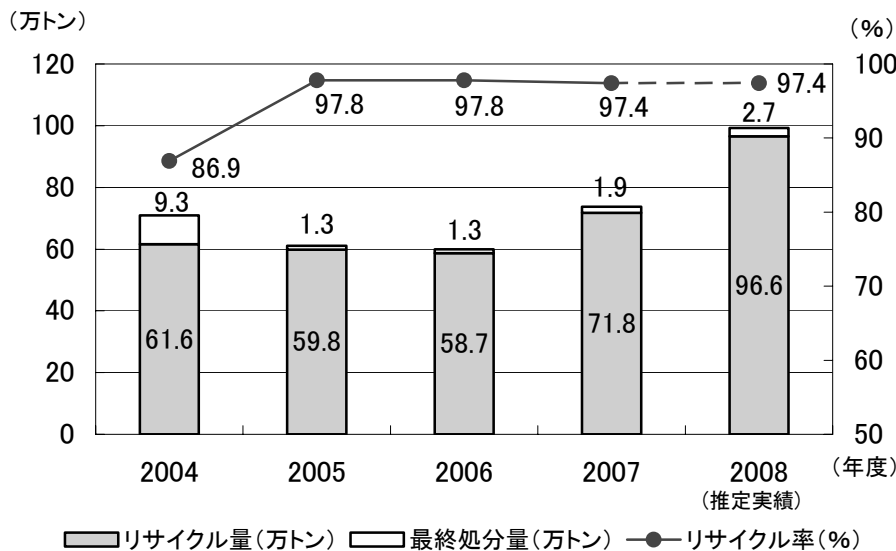
(注) 1. CO₂ 排出原単位とは、販売電力量 1kWh 当たりの CO₂ 排出量。
 2. CO₂ 排出原単位の () 内は、1990 年度を 100 とした場合の数値。
 3. 2008 年度は推定実績。泊発電所の蒸気発生器 1 次冷却材入口管台溶接部の工事実施に伴い、1・2 号の定期検査期間をそれぞれ約 1 か月、約 2 か月延長したため、CO₂ 排出原単位が上昇。

- 風力発電、太陽光発電、バイオマス発電といった新エネルギーからの電力購入のほか、大規模太陽光発電（メガソーラー）や電気自動車などの計画的な導入を進めます（メガソーラーの計画については 3 ページをご覧ください）。

【環境負荷低減に向けた取り組み】

- 廃棄物の発生抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再資源化（リサイクル）の「3R」の取り組みを推進しています。特に、廃棄物の中で発生量が最も多い石炭灰（石炭火力発電所の運転に伴い発生）の有効利用を重点課題として取り組みます。

石炭灰のリサイクル状況の推移



ほくでん「石炭灰リサイクル推進室」（2004 年 8 月設置）を中心とした取り組みにより、近年は 97% を超えるリサイクル率となっています。

石炭灰は、セメント原料や復元材（炭鉱採取跡地復元）、土木建築材料（路盤材、地盤改良材）などに利用されています。

- 「あびらエネモの森」やカミネッコン^(※)による当社事業所での植樹など、地域の森林づくりを支援する「ほくでんグループ みどりのサポーター活動」の取り組みを進めます。



(※)カミネッコンとは再生紙ダンボールから作られた紙型枠のことで、紙で根をコンパクトにしっかり守るという意味。施工が簡単で苗木の活着がよいことから、全道の当社事業所でこの植樹を進めています。

「あびらエネモの森」の植樹

「ほっかいどう企業の森林づくり」制度へ参加し、安平町の約 50ha の土地に、2008 年度からの 5 年間で合計 10 万本の植樹を行います。

【地域・社会との共生に向けた取り組みの推進】

- 各種対話・ふれあい活動や、インターネットを通じた積極的な情報の発受信などにより、引き続き地域・社会の皆さまとのコミュニケーションの充実を図ります。
- 北海道の経済界の一員として、産業クラスター創造活動など、北海道経済の自立・活性化を目指す諸活動への協力を継続して実施します。
- 「科学であそぼ『おもしろ実験室』」や「ほくでんファミリーコンサート」など、青少年の育成や文化振興の観点からの地域貢献活動を引き続き実施します。
- 2008 年 10 月に本格営業を開始した、ほくでんグループの「(株)ほくでんアソシエ」では、障がいを持つ人がいきいきと働くための適切な就労の場を創出し、働くことによる社会的自立と社会参加を支援します。



(放送字幕の制作業務)

「ほくでんアソシエ」

「(株)ほくでんアソシエ^(※)」では、現在、障がいを持つ 16 名が、デザイン・印刷、放送字幕制作、ノベルティー・ギフト販売などの業務を担当しています。

(※)「アソシエ」は、「仲間、同僚」「協同する、結びつく」という意味を持つ英語の"Associate"から名付けました。さまざまな個性を持つ社員が、お互いを尊重しあいながら、共に働くことを通じ、「生きがいと誇りを持って社会に参加していこう」という思いをこめています。

Ⅱ. 2009 年度供給計画の概要

1. 電力需要の見通し

【販売電力量】

- 2009 年度の販売電力量は、民生用では、景気後退に伴う需要減の懸念はあるものの、オール電化住宅の普及に加え、前年度の春先の高気温による暖房需要減の反動などにより堅調な伸び（1.7%）を見込んでいます。
- また、産業用では内外の景気後退に伴う「鉄鋼業」「機械工業」での生産調整などにより前年実績を下回る（▲1.7%）ものと見込んでいます。
- この結果、全体では対前年伸び率 0.7%（気象^(※)・うるう年補正後 0.3%）の 327 億 kWh と想定しています。

(※) 気象補正：電力需要は、気温などの気象の影響を受けるため、気象条件を平年ベースに換算し、販売電力量または最大電力を求めること。

- 中長期的に、民生用については、オール電化住宅の普及はあるものの、人口減少や省エネルギーの進展などから、低めの伸び（2010 年度から 2018 年度までの年平均伸び率 0.9%）になるものと想定しています。
- また、産業用については、素材型産業において需要減となるものの、景気回復に伴う「機械工業」などの加工組立型産業における需要増などから、堅調な伸び（2010 年度から 2018 年度までの年平均伸び率 1.1%）になるものと想定しています。
- この結果、2007 年度から 2018 年度までの年平均伸び率は、0.9%と想定しています。

【最大電力】

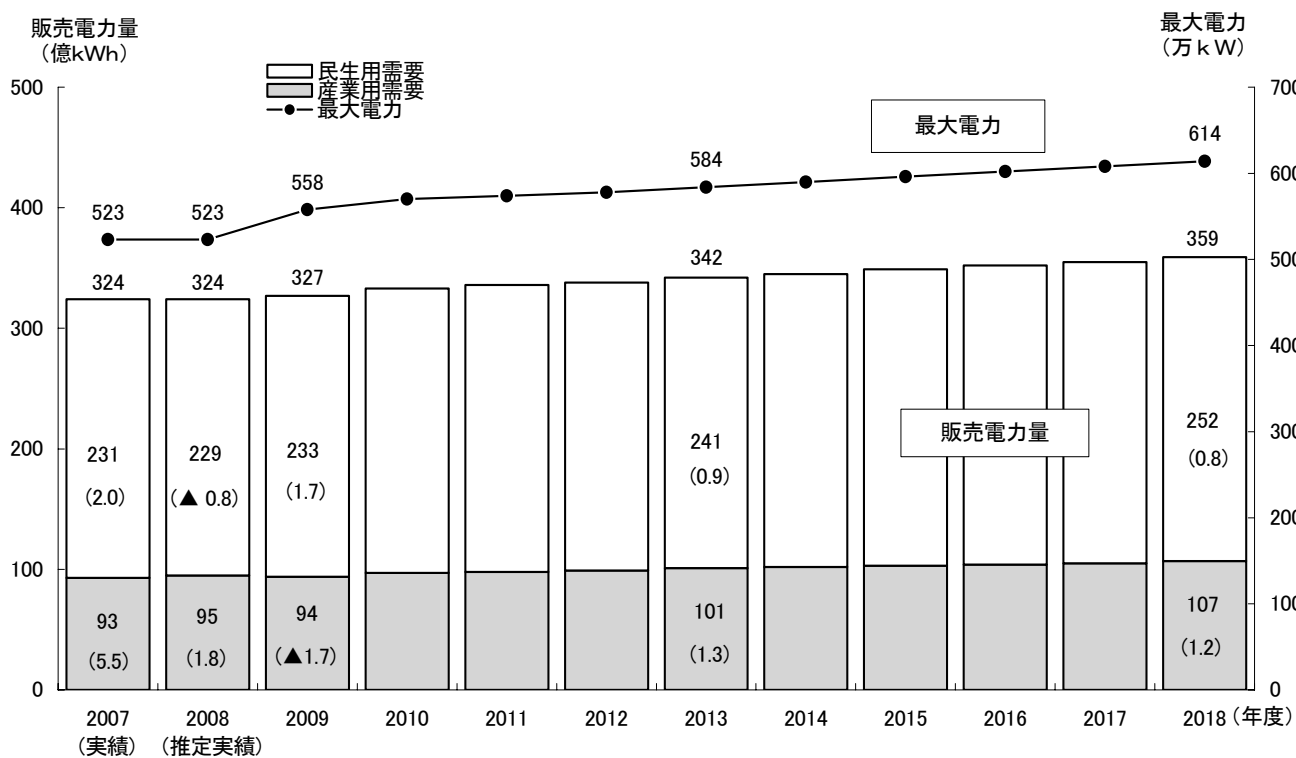
- 2009 年度の最大電力は、前年度の最大電力発生時の高気温や少降雪の反動などから、対前年伸び率 6.7%（気象補正後 0.1%）の 558 万 kW と想定しています。
- 中長期的には、販売電力量とほぼ同等の伸び（2010 年度から 2018 年度までの年平均伸び率 0.9%）になるものと想定しています。
- この結果、2007 年度から 2018 年度までの年平均伸び率は、1.5%（気象補正後 0.9%）と想定しています。

電力需要想定

年度 項目	2007 実績	2008 推定 実績	2009	2010	2011	2012	2013	2018	2007～2018 年平均伸び率 (%)
販売電力量 (億 kWh)	324 (323)	324 (326)	327	333	336	338	342	359	0.9 (1.0)
同上対前年 伸び率 (%)	3.0 (2.5)	▲0.1 (0.8)	0.7 (0.3)	2.1	0.8	0.7	1.0	1.0	—
最大電力 (万 kW)	523 (554) [566]	523 (558) [556]	558	570	574	578	584	614	1.5 (0.9)
同上対前年 伸び率 (%)	0.6 (1.7)	0.1 (0.7)	6.7 (0.1)	2.1	0.8	0.6	1.0	1.0	—

- (注) 1. 販売電力量の2008年度推定実績は、4～12月は実績、1～3月は推定によるもの。
 2. 最大電力は12月の送電端最大3日平均電力。
 3. ()内は気象・うるう年補正後を示す。
 4. 2007、2008年度の[]内は発電端1日最大値を示す。
 (発電端1日最大値は、2007年度は1月、2008年度は12月に発生)

電力需要の実績と想定



- (注) 1. 最大電力は12月の送電端最大3日平均電力。
 2. 民生用需要：一般家庭、事務所、商業施設などの需要。
 産業用需要：高圧以上で電力を供給している工場などの需要。
 3. ()は対前年伸び率。なお、2018年度は2007年度から2018年度に至る年平均伸び率。

2. 設備計画

【電源計画】

- 2009 年度における電源の工事計画は、下表のとおりです。なお、着工準備中の電源はありません。

工事計画

	発電所	出力 (万 kW)	着工	運転開始
工事中	京極	60.0 (20.0×3台)	2001- 9	2014-10 (1号) 2019年度以降 (2・3号)
	泊 (3号)	91.2	2003-11	2009-12

(注) 着工は、電気事業法第 47 条に基づく認可年月、または第 48 条に基づく届出年月。

○水 力

- ピーク供給力として優れた運用特性を有する純揚水の京極発電所 1 号機は、昨年度計画から 1 年前倒し、2014 年 10 月に運転開始の予定です。

○原子力

- 燃料供給の安定性、経済性、環境特性に優れた泊発電所 3 号機は、2009 年 12 月に運転開始の予定です。

電源開発計画

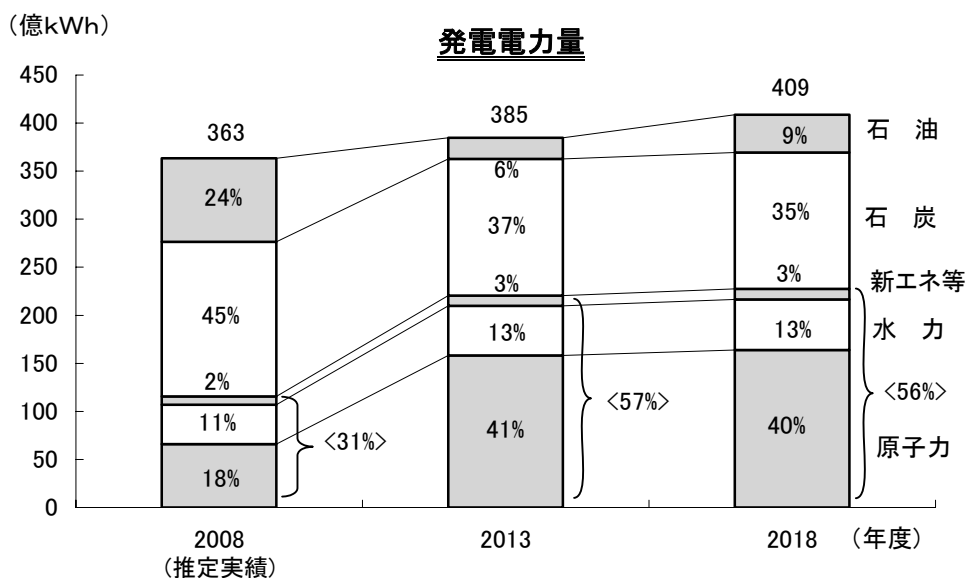
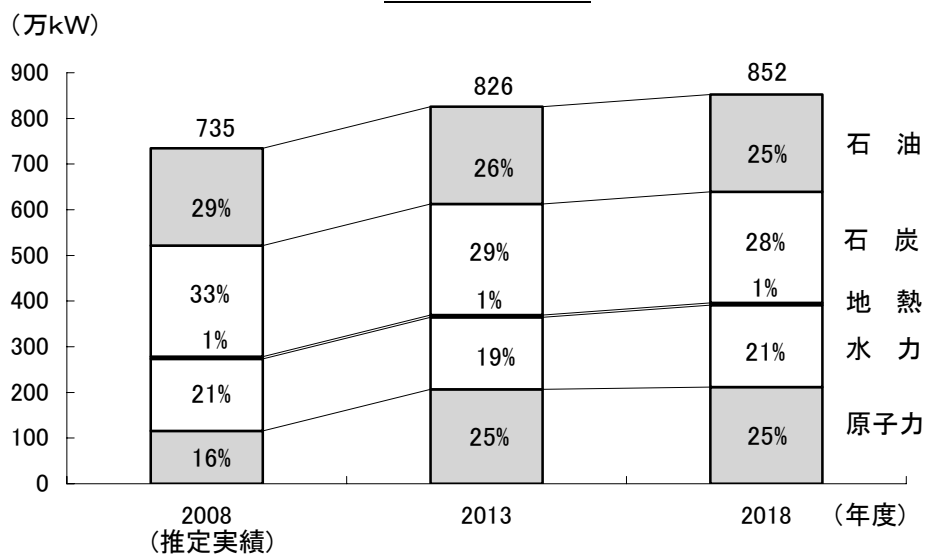
(単位 : 万 kW)

年 度		2009～2013	2014～2018
自 社	水 力		[京極] (2014-10) 20.0
	原子力	[泊 3] (2009-12) 91.2	
他 社 受 電	水 力	[シュ-ハ°] 北海道(2013- 4) 2.66	[新桂沢]電源開発(株)(2016- 3) 1.68
		[サル]北海水力発電(株)(2013-10) 0.1	
		[二股]北海道(2011- 9) ▲1.47 (廃止) [桂沢]電源開発(株)(2013- 4) ▲1.5 (廃止)	
	原子力		[大間]電源開発(株)(2014-11) 4.9
合 計		90.99	26.58 (117.57)

(注) 合計欄の () 内は 2009～2018 年度までの合計値。

- 年度末電源設備および発電電力量の構成は、下図のとおりです。
- 泊発電所 3 号機運転開始後の電源設備は、特定の電源に偏ることのない、燃料情勢の変化にも柔軟に対応できる構成となります。また、発電電力量に占める非化石エネルギー電源（ゼロ・エミッション電源）の比率は 50% を超え、低炭素社会の実現に貢献します。

年度末電源設備



- (注) 1. 他社受電分を含む。
 2. 発電電力量の 2013 年度および 2018 年度の石油には天然ガス（2009 年 12 月より苫小牧発電所 1 号機の発電用燃料の一部として導入予定）を含む。
 3. 新エネルギーからの購入電力については、安定した供給が期待できないことから「年度末電源設備」には見込まず、「発電電力量」にのみ織り込んでいる。
 4. 新エネ等には地熱、廃棄物発電を含む。
 5. < >内はゼロ・エミッション電源の比率を示す。

- 電力需要想定および電源開発計画に基づく最大電力発生時（12月）の電力需給バランスは下表のとおりであり、安定供給に必要な予備率8%以上を確保できる見通しです。

電力需給バランス(12月)

年 度 項 目	2008 実績	2009	2010	2011	2012	2013	2018
最大電力（万 kW）	523	558	570	574	578	584	614
供給力（万 kW）	629	662	682	690	688	696	699
供給予備力（万 kW）	106	104	112	116	111	112	86
供給予備率（％）	20.2	18.7	19.7	20.2	19.2	19.2	14.0

- (注) 1. 最大電力は12月の送電端最大3日平均電力。
 2. 他社受電分を含む。
 3. 端数処理の関係で計算が合わない場合がある。
 4. 2008年度の供給予備率は、最大電力の実績が低かったため、高い値となっている。また、2009年度～2013年度は、泊発電所3号機の運転開始により、供給力に余裕が出るため、高い水準が続く。

【電力流通設備計画】

- 2009年度における主要な送電設備の工事計画は、下表のとおりです。

主要送電設備工事計画

区 分	送 電 線路名	区 間	電 圧 (kV)	こう長 (km)	回線数	工 期	
						着 工	運 開
着 工 準備中	京極幹線	後志幹線 No. 115 ～京極（発）	275	2	2	2010- 4	2013- 9

中期経営方針（2008～2010 年度）の概要

- 発電設備の不正な運用などにより大きく損なわれた信頼
- 地球温暖化などの環境問題
- 原油価格などの資源エネルギー価格の高騰

2008—2010

地域・社会からの信頼の回復に努めるとともに、泊発電所3号機の計画通りの導入など、電気事業の基盤を強固にする

信 頼 回 復

お客さまからの選択

低廉で安定的な電気の供給

地域・社会と一体となった発展

【重点取り組み事項】

課題2. 電気事業の基盤整備と費用低減に向けた取り組みの推進

- ・ バランスのとれた電源構成を構築するとともに、設備経年化に的確に対応し、安定供給の維持に努めていきます。
- ・ グループ一体となった人材育成・技術継承方策を推進していきます。
- ・ グループ一体となって、効率化を更に推し進めていきます。

課題3. お客さまからの選択の獲得に向けた取り組みの強化

- ・ 省エネルギー・環境性に優れたヒートポンプ機器を積極的に提案していくなど、お客さまニーズにお応えする活動を展開していきます。
- ・ 電化のご相談やアフターサービスの受付など、お客さまの安心・快適な電化ライフをサポートしていきます。

課題4. 地域・社会との共生に向けた取り組みの推進

- ・ 自主行動計画で掲げる「CO₂排出原単位目標」達成に向けて状況に応じた様々な手段を講じていきます。
- ・ 省エネルギーの推進など環境への取り組みの着実な実施・充実を図っていきます。
- ・ 社会とのコミュニケーションを充実・強化していきます。

課題1. 信頼の回復に向けた取り組みの強化

- ・ 2006年12月以降に判明した発電設備に係る不正な運用などにより、地域の皆さまをはじめ広く社会の皆さまの信頼を大きく損なったことを真摯に受け止め、グループ一体となって、業務品質の確保とコンプライアンスの徹底に向けた取り組みを強化していきます。

参考資料 2

設備投資額（当社単独）

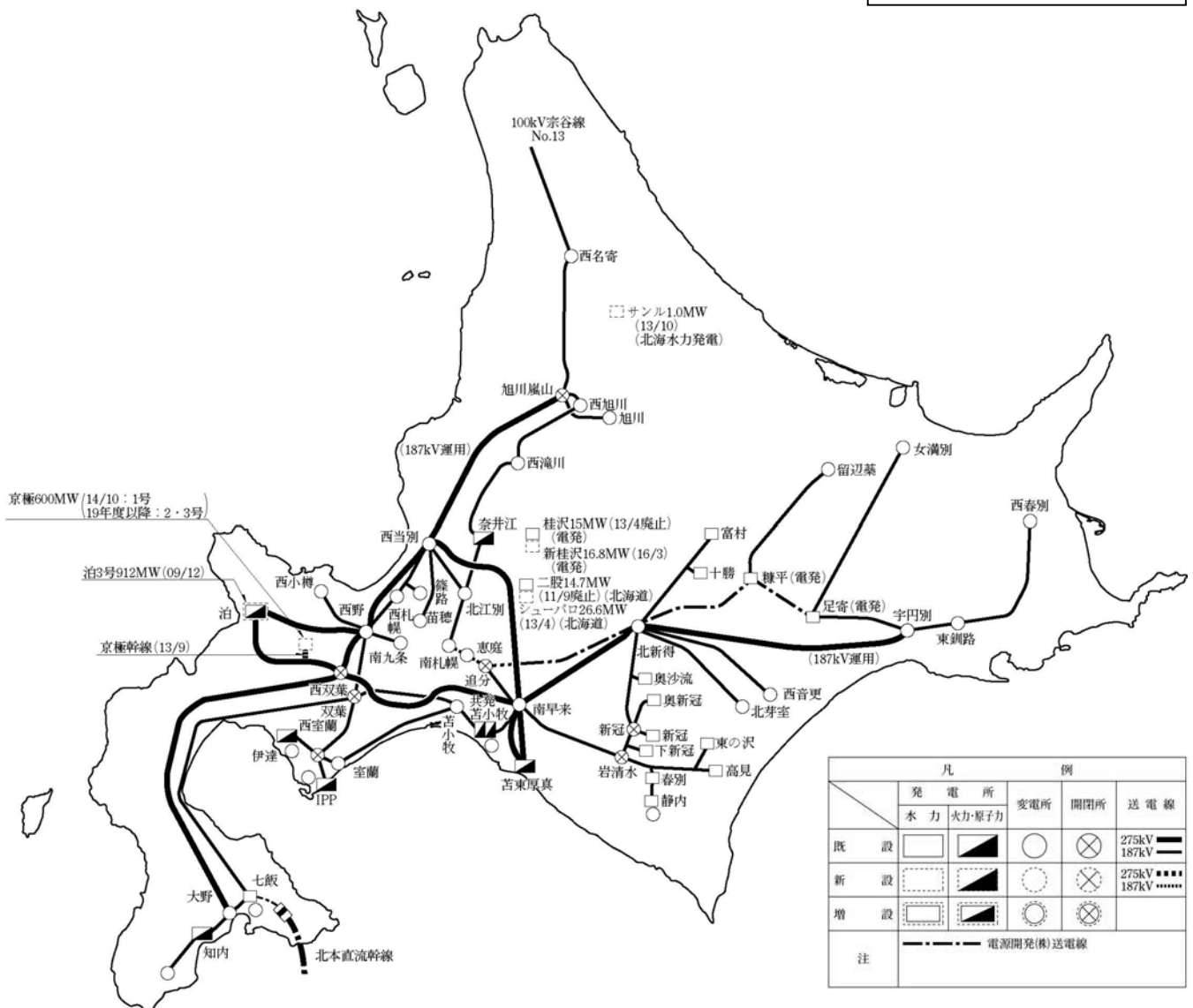
（単位：億円）

		2008（推定実績）	2009（計画）	2010（計画）
電 源	水 力	78	162	220
	火 力	76	56	151
	原子力	512	482	123
	小 計	666	700	494
流 通	送 電	95	152	153
	変 電	107	68	77
	配 電	152	179	183
	小 計	354	399	414
そ の 他		59	33	56
原子燃料		167	161	140
合 計		1,246	1,293	1,104

（注）端数処理の関係で計算が合わない場合がある。

参考資料 3

電力系統略図



ほくでんグループ各社の事業内容（2009年3月現在）

北海電気工事（株）

電気・電気通信工事、土木・建築工事、管・空調・給排水設備工事、
防災・防犯設備工事
TEL(011)811-9411(代表) <http://www.hokkaidenki.co.jp>

北海道総合通信網（株）

イーサネット通信網・インターネット接続等の電気通信サービス、
情報通信ネットワークの工事・保守・監視およびコンサルティング、
ネットワーク関連機器販売、セキュリティビジネス
TEL(011)590-5200(代表) <http://www.hotnet.co.jp>

北海道計器工業（株）

電力量計の整備・製造・販売および検定代弁、電気計器・機器の
試験、工事
TEL(011)676-1111(代表) <http://www.keikou.co.jp>

ほくでん情報テクノロジー（株）

情報処理システムのコンサルティング・開発・運用管理・教育、
情報処理機器・ソフトウェアの販売、インターネットデータセンター
事業、その他情報処理関連サービス
TEL(011)210-7717(代表) <http://www.hokuden-it.co.jp>

北電興業（株）

建物の賃貸借・管理、土木・建築工事、環境保全、温浴事業
TEL(011)261-1476(代表)
<http://www.hokudenkogyo.co.jp>

（株）エナジーフロンティア

コージェネレーションシステムによる電気・熱エネルギーの供給
サービス、空調システムの受託事業
TEL(011)251-5656(代表)
<http://www.hepco.co.jp/group/enagy.html>

北電総合設計（株）

土木、建築、環境、エネルギー、電気に関する総合建設コンサルタ
ント
TEL(011)222-4420(代表) <http://www.hokuss.co.jp>

（株）ほくでんスポーツフィールズ

サッカークラブの運営、サッカーグラウンドのレンタル、セミナーや
イベントの企画・開催および運営受託
TEL(011)391-3030(代表) <http://www.h-sf.jp>

北海道パワーエンジニアリング（株）

火力発電事業、火力発電所の運営受託、発電設備ほか各種プラ
ントの建設・補修・保守・運転およびコンサルティング
TEL(011)221-3921(代表) <http://www.hpec.jp>

北海道フードフロンティア（株）

北海道産品の小売事業、イートイン事業、ギフト販売事業、催事
事業、インターネット通信販売事業、卸販売事業
TEL(011)261-4321(代表) <http://www.foodist.co.jp>

苫東コールセンター（株）

海外炭の受入・保管および払出業務、海運代理店業、通関業
TEL(0145) 28-3121(代表)
<http://www.hepco.co.jp/group/tomatoh.html>

（株）ほくでんアソシエ

デザイン・印刷・製本、放送字幕制作、ノベルティ・ギフト商品類
の販売、日用雑貨・食料品等の販売
TEL(011)816-1140(代表)
<http://www.hokuden-associa.co.jp>

北海水力発電（株）※

水力発電事業、水力発電設備の維持管理業務の受託
TEL(011)221-7745(代表)
<http://www.hepco.co.jp/group/suiryoku.html>

北海道レコードマネジメント（株）

文書管理改善業務、機密文書の機密消滅処理・リサイクル
TEL(011)252-5825(代表) <http://www.hrm.jp>

ほくでんサービス（株）

住宅電化に関するご相談・コンサルティング・アフターサービス、照
明の省エネルギー提案・施工、電気料金に関する検針・集金、配
電設備の設計・調査・保守業務
TEL(011)251-1141(代表) <http://www.hokuden-service.co.jp>

※北海水力発電（株）は、「太陽光発電、風力発電等による電力の販売」等を事業内容に加えるとともに、「ほくでんエコエナジー（株）」に社名を変更する予定です。

ともに輝く明日のために。
Light up your future.

ほくでんグループ

北海道電力株式会社

〒060-8677 札幌市中央区大通東1丁目2番地

TEL (011) 251-1111

ホームページ <http://www.hepco.co.jp>

■お引越しやアンペア変更の手続きは、「ほくでん契約センター」で承ります。

フリーダイヤル ☎0120-12-6565 (営業時間:月～金 9:00～17:00、土 9:00～15:00、休業日:日・祝日、12/29～1/3)

※お引越しの手続きはインターネットでも承ります。ほくでんホームページ <http://www.hepco.co.jp>

■住宅の電化に関するお問い合わせは、「ほくでん電化サポートセンター」で承ります。

フリーダイヤル ☎0120-155-680 (24時間・年中無休)

■道内各地域の停電情報は、次のフリーダイヤル音声メッセージでお知らせしています。

- | | | | |
|----------|---------------|----------|---------------|
| ・旭川支店管内 | ☎0120-235-121 | ・釧路支店管内 | ☎0120-547-121 |
| ・北見支店管内 | ☎0120-245-121 | ・帯広支店管内 | ☎0120-638-121 |
| ・札幌支店管内 | ☎0120-285-121 | ・室蘭支店管内 | ☎0120-768-121 |
| ・岩見沢支店管内 | ☎0120-438-121 | ・苫小牧支店管内 | ☎0120-827-121 |
| ・小樽支店管内 | ☎0120-465-121 | ・函館支店管内 | ☎0120-895-121 |

